

平成 29 年度第 4 回天守復興部会会議録

日時：平成 29 年 10 月 23 日（月）14：00～16：30

会場：熊本市議会議運・理事会室

出席委員：伊東（龍）委員、今村委員、谷崎委員、富田委員、西村委員、西嶋委員、毛利委員

熊本城総合事務所：津曲所長、野本副所長、濱田副所長、古賀技術主幹

熊本城調査研究センター：網田副所長、美濃口主幹兼主査 他

1 開会

2 熊本城総合事務所長 挨拶

津曲所長	<p>本日の部会は、4月・6月・8月に引き続き、第4回目となります。</p> <p>過去3回の部会におきましては、耐震化・バリアフリー・内装展示の刷新・展示案等について委員の皆様方から様々なご意見をいただいております。</p> <p>本日の第4回では、具体的なイメージパース等も準備しております。こうしたビジュアル的にわかりやすいものを駆使しまして、さらに活発なご意見をいただきたいと思います。</p> <p>業務の近況状況についてご説明をいたしますと、天守閣の展示・内装・基本設計業務、これは委託でございますけれども、来年2月の成果品納入に向かしまして作業を進めております。委員の皆様方から部会においていただきましたご意見について、順次作業に反映させております。</p> <p>なお、本日の部会を中間報告、次の部会を最終報告と位置づけておりますので、展示内容基本設計業務に関し、いよいよ皆様方の意見を部会の総意としてまとめていただきまして、その業務の中で反映していきたいと思っております。どうかご審議の程よろしく申し上げます。</p>
------	--

3 審議事項

(1) 天守閣展示の検討状況について

・(資料1)に基づき事務局より説明

谷崎委員	石垣の工事はどのようなものになるのか。天守が載った形で石垣があるが、それはどのような工事になるのか。
事務局	基本的には、今までは小天守が載っているような状況で、大天守は吊り構造といって石垣に加重がかからないような構造となっている。今回について

	ては大林組からの技術提案もあり、小天守についても石垣に加重をかけないような方法を選定し、加重をかけない形で建築の工事を進めることを考えている。
谷崎委員	小天守が載ったままで、石垣の工事はできるのか。
事務局	基本的にはそのように行う。部分的にはそのように工事をして、石垣も解体し、その中で積み直しながら、加重をかけない方法で進めていくという形になる。
今村委員	追加だが、石垣の積み直しであまり隙間がない場合、どういう工法で積み替えるのか。石垣と建物の間の隙間が、非常にない。
事務局	基本的には積み直しをする。
今村委員	どういうふうにはずして、積み直すのか。
事務局	今現在は、まずは文化財修復検討部会で石垣の解体範囲を実質決めている状況になるため、例えば大天守の外側の必要最小限の解体範囲を実施していこうということで、基本的には、外側であれば上の方から釣り込んだりする。天守の中は、地下1階だと上に建造物があるという状態ではできないため、中に小さい機械を入れて、横から積み込むことを検討している。
今村委員	あの範囲を、そのような機械で横から積めるのか。
事務局	今の段階では、できるか・できないかということ、文化財修復検討部会の中で検討している。
今村委員	具体的にどういう方法であるかは、決まっていないということか。
事務局	はい。今現在決まっているのは、あくまで大天守の解体の範囲や、その範囲を決めているところである。復旧の方法などは、今後文化財修復検討部会で詳しく検討していくことを考えている。
今村委員	石垣の展示部分と建物の基礎部分との間の隙間が30(cm)ぐらいでしょう。その間の石をどうやってはずすのか。手前だけなら出来るが、奥の方はどうやってはずすのか。
事務局	例えば大天守は、崩れている範囲が結構ある。そういったところは下から積み上げるような形になるため、順に下から積むような形になるかと思う。上の方になれば隙間が狭くなってくるので、そういったところは、どのような機械で、どのような形で積み直すか、今後詳細に検討していきたいと考えている。
津曲所長	いずれにしても、技術的な面も、建物のある状態で石垣を積むという条件は変えていないため、文化財修復検討部会でも、そういう条件での復旧方法等について充分検討していただくことと考えている。ご心配いただいているように、どのようにしてはめるかということについては、現実的に明確に確定しなければならないが、文化財修復検討部会の方でそれは検討さ

	せていただきたい。
西嶋委員	前回の振り返りというところで、マスタープラン、城域全体の展示体験のことを前回もお尋ねした。復旧計画に関する委員会が9月の半ばに開かれて、20年をかけて復旧していく過程の案がホームページにもアップされていた。いつから天守閣に入れるのか、他のゾーンはいつになったら入れるのかという時間軸も、全体の展示体験のマスタープランにとっては、地震があったからこそ極めて重要な項目となる。20年かけ、どういう段階で進んでいくかということ。新聞報道等によると、10月に次の委員会が開催され検討されるということなので、どこかの時点でこの部会においても、その20年の道のりの計画案の提示があるのか。
津曲所長	復旧基本計画策定委員会で、全体のエリアや期間などは検討しているが、根本的には復旧基本計画自体も、保存活用計画との連携と、部会で検討しているところとの連携なので、なかなか部会等を開催するタイミングを調整するのは難儀している。今後どういうタイミングで話ができるかということは、この場で示すことはできないが、連携をするという考え方は、何らかの形でお互いの情報を交換しなければいけないと考えているため、今後調整をさせていただければと思う。
西嶋委員	そういう意味では今日の時点では、いつから天守閣の中に入れる、展示が見られるということは、まだ少し流動的と理解していいのか。
津曲所長	いずれにしても、天守閣は早期に復旧するという位置づけをして進めている。天守閣が完全に復旧した場合、大天守・小天守も復旧し、天守閣に対する全体の流れがとれた段階では、天守閣の中の展示関係も完成していかなければならないと思っている。ただし、天守閣へどういうふうにお客様を招くかということは、これは全体の計画の中で調整がかかってくるため、どの段階かといわれると、天守閣が復旧すれば当然中の展示もそれにあわせて少なくとも復旧し、完成させるのが必要だとは感じている。
西嶋委員	招くという言葉をお使いになったが、一般の者が天守閣までたどり着くのがいつになるのかはまだはっきりしないということか。中はできても色々な安全確認や道が全部出来上がっていないと。安全に安心して多くの方々がそこを歩いて天守閣までたどり着くというスケジュールが、まだ流動的と理解していいか。
津曲所長	はい。前回の復旧基本計画策定委員会の中で示したが、2019年には大天守の外観が復旧すると、日祝日限定となるが、今工事用に使っているスロープが、その日は工事がお休みになるので、その期間は曜日限定という形で天守閣周辺にお客様が入ることは可能となると考えている。ただ、平日もといわれると復旧作業が行われているので、平日についてはなかなか難し

	いと今の段階では考えられる。今後復旧基本計画の策定委員会についても、委員がおっしゃったように近々また開催し、その中で色々審議していただくことになるため、現段階ではまだそのようなお答えしかできないが、今後の検討内容によっては状況が変わってくると考えられる。
伊東部会長	そういった今後の色々な工事の進捗状況のスケジュールなどを踏まえ、今回の天守復興部会の内容を考えていく必要がある部分もあるので、そういうことに関してのご質問だと思う。天守の工事の進捗状況については、先ほど事務局から説明があったように、ご質問が出て、それに対応して詳しく説明がされるようになった。これからも、なかなかこういう話をしっかり出来ないため、はっきりと言えない部分もあるかと思うが、また可能な限りお教えいただくことで、いい展示につながると思う。
谷崎委員	市民オープンハウスとワークショップが開催され、良い意見も出たと聞いている。それが反映された上で、この部会の中で今回中間的な案がまとめられているのか。それとも、それはまた別個で審議・検討されるのか。
事務局	こちらの方で報告はしていないが、そのあたりの意見を反映させながら、設計を現在進めていくこととなる。本日の内容については、また後ほどご説明させていただく。
谷崎委員	もし差し支えなければ、市民ワークショップで出た意見ということを少し添えながらご説明いただくとありがたい。色々アイデアが出たということは聞いているので、可能な限りで。
伊東部会長	では可能な限りご説明いただくとともに、委員の先生にも参加された方がいるということで、ご意見・ご発言いただければと思う。

(2) 展示ゾーニング案について

・(資料2)に基づき事務局より説明

事務局	では、先ほどご質問いただきましたワークショップの展示の希望について、各階で関連することを説明します。全体を通して多かった意見は、子どもたちにもわかりやすい展示にしてほしい、外国人にもわかりやすい展示にしてほしい、AR・VRなどの映像を使ってほしいなどが多かった。それについては、各階で出来る範囲で映像、AR・VR、スマホアプリなどを使用したいと考えている。それから、エレベーターについては、エレベーターはいらないという意見や、全く逆で、どんな人でも天守に登れるようにしてほしいという意見もあった。展示自体については、展示は何もいらない、江戸時代から残る本物を展示してほしい、当時使っていたものを展示してほしいなど、細かい意見もあった。内装に関わることは、建物の実感が伝わるようにしてほしい、各部屋の役割がわかるようにしてほしい、どこか
-----	---

	<p>の部屋を再現してほしい、子どもが遊べるような展示にしてほしいなどがあった。内装復元は、鉄筋コンクリートの建物の中では完全には難しい部分だが、ご提案している中では地下の穴倉の部分がそれにあたるのかと思う。映像を使って当時にタイムトリップしたいというのも、先ほどの地下の演出がそれにあたると思う。また、五感を用いて楽しめる展示がほしいということで、平井先生からもご指摘があり、視覚障がい者の方等に手で触れていただけるようなものも考えている。あとは復旧の過程をパネルで展示・解説してほしいというものもあったので、これについては4階・5階の復興城主や進捗なども含めて展示に出せたらと思っている。他には、熊本城の勉強ができるようにという点については、先ほどマニアックなコーナーを設けると申し上げたが、1階のサブエリアなどといった場所で実現できたらと思う。ガラスケースがない方がいいというご意見もあり、これは出来るところが限られるが、大型模型、特に1階の軸組模型と2階の城下町模型は剥き出しで展示ができないかと検討している。見やすさを考えると、ガラスケースには入れない方がいいと思う。具体的にはそういったことを反映させ、計画に盛り込んでいる。</p>
伊東部会長	<p>まず資料 2-1 の穴倉部分の、井戸・竈・板敷き部分の復元、導入サイングラフィックをどうしたらいいかということで、具体的な CG の案を示してあるが、いかがでしょうか。</p>
谷崎委員	<p>井戸の部分は当然覗かれるでしょうけど、これは現在井戸のある場所なのか。下まで覗けるか。</p>
事務局	<p>はい、従来の場所です。覗けます。</p>
富田委員	<p>大天守の地下にトイレが2ヶ所作ってあるが、これは何か公的な基準でこういう建物には必要なのか。</p>
事務局	<p>法的には必要ではないが、天守閣の周りにはなかなかトイレがない。元の天守閣前トイレが崖の際にあって非常に危ない状況で、今回は天守閣の中にトイレの設計をしている。</p>
富田委員	<p>この場所は、右上の方にエレベータースペースがあるが、ここに昔トイレがあった。天守閣の中で水を扱うためシロアリがたかり、相当にひどい状況で、コンクリートまで噛む。だからこの場所だと少し水の按配が心配。</p>
事務局	<p>今回は空調を入れて湿度調整も取り入れていきたいと考えている。</p>
今村委員	<p>地下の穴倉の竈は平面図が残っている。あれにそって造ってあるのか。</p>
事務局	<p>はい。穴倉の平面図については江戸中期のものが2種類残っており、それに基づいて復元をするが、どうしても現代の階段位置等があるため、少し場所がずれたりすることがあると思う。</p>
今村委員	<p>場所の特定は出来なくて、ここに造ったということですか。</p>

事務局	いいえ、平面としては同じような場所に作りたいと思っている。
今村委員	平面図でこの位置だったか。あまり記憶にないが。
伊東部会長	具体的な位置は、どの程度かということはありませんが。
事務局	平面図はきちんと残っているので、板敷きの場所やカマドの位置も3つの穴がきちんと描写しており、場所としてはわかる。
今村委員	間違いないか。
事務局	はい。
今村委員	当然地下1階には本来は銃眼がついている。それはこの図では見えないが、どういう形になるか。
事務局	絵図ではどうしても平面しかわからないので、そういった銃眼の場所も細かくはわからない。もう一度平面図を確認して検討したい。
伊東部会長	少し復元を始めると、何をどの範囲まで復元するのかということになってきて、それが非常に難しい。板敷きがあったところまで板敷きを復元するのか、井戸・竈の近くにあるからやって、どこまでやるのか、ということも問題になってくると思う。そのあたりに遺構として確認できるものがあったり、平面図でわかる部分があったりするので可能であるという話だが。それを他の先生がどうお考えになるか。平面上はわかるが、それが立ち上がってくるとどのくらいの高さがあったのかというのは直ちに想像になってくる。立体的に復元するという方法と、立体的には復元しないという方法もありうると思う。情報としては平面的な情報しかないので、見ていただいた人に根拠をきちんと示しながら展示をするという点では、立ち上がってきた瞬間に想像の部分がますます増えてくるという状況になる。その辺りが少し難しい。
津曲所長	今村委員がおっしゃった狭間があったというのは知らなかった。少し難しいが、いずれにしても、今回地震で復旧するにあたって天守の展示についてはまだ一から見直しということだが、天守閣の位置づけ自体は外観復元であり、今回の地震での復旧にあたっては地震の前に戻すということで、外観はそのまま元に戻さざるを得ない。例えば、ほかの建造物にも狭間があったということはあるものの、根拠がなくてなかなか難しいと。それについては、もう地震前に戻すということを基本にする。外観としては外観復元という形で地震の前に戻したいと。ただ中の展示については復旧というよりも新たに展示をしていく手法とし、平面の表示がいいのか、立体的な表示がいいのかというのを切り離して考えていただければと思う。今回は狭間という問題ではなく、内装の状況をどういうふうに示していくかというところにポイントを絞っていただければと思う。
伊東部会長	そういうことでよろしいですか

今村委員	わかりました。もう一つ、実は参考資料 1-1 でフレームが組んであるが、これは補強ですね。
事務局	それについては、補足の説明をする。

(3) 参考資料について

・(参考資料 1) に基づき事務局より説明

伊東部会長	回収資料の参考 1-1 をみていただきますと、穴倉のつきあたりの部分、竈の向こう側が壁のようになっていて、これが新しく加えられる補強の筋交い状のダンパーを隠すような案。1枚めくっていただくとその向こう側に本来入っている構造をそのまま見せる。ただし、向こう側に本物の穴倉の石垣が見えるという案。どちらがいいかということを含めての井戸・竈・板敷きの復元ということになるかと思うが、参考資料の説明は後でやる予定でいたが、いかがでしょうか。向こう側を壁にするような案と、ダンパーを見せて、本物の穴倉の石垣を見せるというような案。どちらがよろしいでしょうか。
西村委員	私は今の説明非常に慎重にされていると思う。安全対策の面、建物自体の耐震補強については充分考慮されていると思って大賛成だが、見える・見えないということにおいては、お金も相当かかるんだろうと思うが、できれば見えない方にしてもらって、一部隅の方でいいので、こんなことをしていると。安全対策でしているということを表示できるような表し方にしていればありがたい。
今村委員	私も西村委員の意見に賛成だ。金沢城でも補強をわざと透明のガラスの中におさめて補強の部分を完全に示している。全体でこれを見せるとあまりにも異様な感じがするが、一部でこういう安全対策をしていると示すことは必要だろう。
西嶋委員	全体の展示との関係で、3階では明治22年の震災の歴史を紹介しているが、今回の熊本地震に関連することはどうか。熊本城の歴史においては明治22年の地震の何倍という巨大な地震に襲われている。それは熊本城の歴史においても非常に大きな出来事だが、そのことはその城域なり、どこでどういうふうに伝えられるのか。天守閣が一度明治10年に焼失して再建がなされ、今回の地震で被害を受けたけれども、こういう形で再開をするという経過をたどっているもので、お二人の委員から一部そういうものの表現の仕方、見せ方と工夫があるのではないかというご意見があったが、全体との関係で説明できるように位置づけてもらいたい。
伊東部会長	今までの流れからすると穴倉は他の展示をするのではなくて、穴倉の内部の石垣そのものを見せるようなイメージ。本物を天守内部で感じられるの

	<p>は穴倉だけなので、穴倉の部分が見せられるような展示内容にしようという方針があったようにも思うが、完全にそれを見せないということにしてしまうと、最初の構想からずれてしまうようにも思う。大変な地震を経てこの天守も含めて復旧・復興をしようとしているところで、こんなダンパーをつけないと天守は安全に見ることができないとか、青い柱で石垣内部を補強しないと安全に見ることができないということで。それを今回補強したのを見せながら、本物の穴倉の壁の石垣を見せるという方法もありかなということ考えた次第ですが、いかがでしょうか。</p>
西村委員	<p>部会長がお話した通り、そういう石垣の部分を見せるとなれば、この回収資料 1-1 あたりが一番ベターではないかと思う。図左側の石垣を見せて、ダンパーの入っている方は壁にする。石垣は剥き出しで見せる、しかしネットを張って防禦するという。先ほど事務局の説明があったので、石垣を見せて、なおかつネットで防禦も張るという工法もあるのならば、安全対策もこれだけしているという PR にもなると思う。資料 1-1 のイメージ図が一番ベターだと思う。石垣の部分でいいますと、資料 1-3 の右上、ネットを張っているのが具体的にわかる。この方法でされたらいいのではないかと思う。</p>
事務局	<p>資料 1-1 と 1-2 を見比べていただいているが、これは「2 択」ではない。壁を建てるということになると、その壁を単純に目隠し壁として建てるのか、板敷きの床から壁を立ち上げて内装復元のイメージで造るのか、手法が全く変わってくる。そのあたりも含めてどうするのかを考えていただきたい。今のところ絵図の話で、平面表示は絵図に基づいておおよその位置は出せると申しましたが、三次元の根拠はないため、そこから壁を立ち上げて上の天井部分の始末をどうするか、どうおさめるか。極端なことを言うと、映画のセットのように途中で立ち上げておしまいということになってしまう。そのあたりの壁の作り方にも関わってくる。純粹に井戸の位置・竈の位置・板敷きの平面配置のみで絵図に基づく平面を根拠とするということで終わらせるのであれば、資料 1-2 の方が「場所性」といいますか、「天守の中で本物の地下空間」という今までの話の流れで、話し合いのテーマとしてはあってくる。「2 択」ではないということで、その先の演出方法も込みで、監修が可能なのか、どなたかに監修をお願いできるのかどうか、そのあたりもご助言いただければ。</p> <p>もう一つ、先ほど明治時代の地震と今回の地震の話で、ダンパーを見せるのもここだけの話ではないのではないかということだったが、もちろんダンパーが入るのはここだけではなく、もっと上層階にもダンパーは入る。また、4・5 階では復興城主や復旧といった現代の情報を提供する内容にな</p>

	<p>と思うので、内容に合致するという点ではそのあたりで説明を出す方がぴったりくる。ただし、地下はクロスダンパーでわかりやすいが、場所ごとにダンパーの種類が異なり、片流れのダンパーだったりする。大天守の出口側でダンパーを見せるというのも、一つの候補として考えている。これはダンパーを見せる・見せないにこだわっての資料ではない。石垣を「文化財」として「本物」を見せるとなると、もれなく手前にダンパーがくるといふ説明資料。まず石垣を「文化財」としてどうしたいかというのが主眼で、そこに客体としてダンパーがついてきてしまうという話かと思う。</p>
毛利委員	<p>私は専門外なのでよくわからないが、色々お話を聞いて、来場者に安心感、熊本城の復元の努力を見せるためには見せた方がいいと。そのためにはその色やそのダンパーの素材、例えば、木造の柱のようなイメージを貼り付けるなどができれば随分イメージが変わると思う。</p>
伊東部会長	<p>今回は色分けして部材をわかるようにするためにこの色にしているので、この色になるというわけではない。色の配慮も非常に大事なことだと思う。</p>
富田委員	<p>壁をどこか一ヶ所つぶしてでも震災コーナーかなんかがいるだろう。それが入ってすぐの小天守の穴倉がいいのか、もう少し人の流れがゆっくりとなった1階などのスペースででもやったほうがいいのか。これだけの大地震は、おそらく400年生きた人でも初めての経験だろうから。</p>
西嶋委員	<p>先ほど事務局から話があったが、第一義的には石垣を見たい、なるべく石垣が見える状態にというのが私の意見です。</p>
今村委員	<p>構造物を何かで隠すというのはできるのか。壁以外で、剥き出しではなくて。木構造のような形に変えるというのは。そのままではなくて木構造の柱が通っているような形にでもできれば、見た感じが随分変わってくると思うが。巻いたりとか。</p>
事務局	<p>たぶん点検口はいる、完全に埋めごろしにはできない。</p>
事務局	<p>巻いてしまうと地震が起きたときにオイルダンパーとかブレーキダンパーなどが故障していないのか確認する点検口などが必要となる。</p>
事務局	<p>巻くことは可能。ただし、オイルダンパー、ブレーキダンパーの奥行きがかなり大きなものになるので、それを隠すとなると80センチぐらいの奥行きで囲ったものになる。これに囲われた三角形の空間を斜めから見たときに、どれだけ石垣が見えるかという検証はまた別に必要になってくる。また、石垣をメインで見せるということでそういう方法を取る案と、そこを壁で隠す案と、空間的な復元がどうこうという案に、さらに木が出てくるのがどうなのかという議論がもう一つ増えるとは思う。技術的には隠すことは可能。</p>
伊東部会長	<p>そうですね。ここで板敷きや竈とか、それを復元しようというときに、木</p>

	造時代のものとダンパーを勘違いする人はいないだろうが、そういう木構造がかつてあったのかもしれないという誤解も有りうる。最近の子どもたちは、外国人のように、日本の伝統的な木造のことを知らないため、「こんなものをどこかで見た」ということになるかもしれない。先ほどの板敷きの復元などは難しいが、私も穴倉の石垣をできるだけ見せたいと思う。その時に板敷きや、そのやりかたもどう見えてくるのかという問題はあるが。
富田委員	谷村計介の銅像はどうなったのか。
事務局	谷村計介の銅像は無事だが、小天守の内部の石垣が崩れており、西側が台座の際まで石が落ちてきているような状況。今後、一時銅像を移動させないと石垣の撤去等が行えないので、移動させて工事という流れになる。
今村委員	その後はどうするのか。元のところに置くのか、別のところに置くのか。
津曲所長	谷村計介の銅像の設置の由来は十分に承知しているわけではないが、どうしたものかというところはある。設置の経緯があると理解しているので。
事務局	計画案では、車椅子置き場やエレベーターを設置する予定の場所である。方針に基づいて進めており、平面計画としては車椅子置き場とかベビーカー置き場とか、そういったスペースにしている。谷村計介についてはまた別の場所で考えていかないといけないかと考えている。
今村委員	寄贈者はわかっているのか。
津曲所長	寄贈者はライオンズクラブ。今回の復旧にあたっては一時移動をしなければいけないということは考えているが、どこにということになると慎重に考えなければいけないと思う。経緯がわかっていない状況なので、充分調査をした上で、またご相談したい。
今村委員	あれは文化庁の了解であの階に持って行ってある。本来谷村計介の銅像は下馬橋（行幸橋）を渡って右側に戦前はあった。あれは第二次世界大戦で供出されており、その後にもた復旧した。だから当時の形とは随分違うが、これも寄贈者のたつての願いでああいう形で造ってある。その方はその時に1000万円の寄附をされている。だから場所を変えるのであったらきちんと了解を得るように。
津曲所長	わかりました。
伊東部会長	では本題に戻りまして、壁はあった方がいいですか。ダンパーを見せつつ、本物の石垣も見せるという。
西村委員	折衷案でいい。
伊東部会長	折衷案というのは。
西村委員	クロスダンパーの方は壁にして、石垣との折衷案がいいと思う。そして、その一部を透明ガラスかなんかで見せる。よその城でもそういうのを見学者に見せるところを造ってある。そして、「震災でこういうものを入れて皆

	さんの安全を作っているんだ」ということを子どもにもわかるように、見せてほしいと思う。
谷崎委員	同じですが、竈や井戸というその当時のものをリアリティを出そうとしているのに、その向こうにクロスダンパーが入ってくると、少し見る側としては興ざめな感じがあり、左側の石垣は先ほどおっしゃったように木製の柱のような施しをして石垣は見せるということにできたら、見る側としてはいいのかなという感じはする。その当時の内装が資料として残っていないのであれば、本当にそれは壁でいいのかというのはあるが、このクロスダンパーは見る側としては井戸も竈も新しく造りつけたという感じで、リアリティが出てこないのではないかと感じは少し心配。先ほどおっしゃったように、石垣のところに窓を作るとか、左側の石垣でも充分その設えが見えるのかなという感じはしている。
伊東部会長	井戸とか竈も、こういう形で造るかどうかを検討するというものから。
今村委員	井戸があるなら、本来なら釣瓶で汲んで水を上げたはず。これだと上から下に投げ込んで汲んでいたことになる。あそこは下まで 30m くらいある。とてもそんなこと出来ないだろう。当然滑車をつけて汲み上げるようなものがあつたのではないかと。
事務局	井戸の上部構造も含めて、今までもそういう解説は何もなかった。平井委員長と伊東部会長に展示の全体監修をお願いすることになっており、今までの会議の中で決めていただいた内容でまずお二人にご相談し、「このイラスト、この図、この絵図に基づいて実際復元をやる」ということになると思う。従来でいうと北野先生のイラストがあつて、一番詳しく描いているのはこれになる。この地下の部分は板敷きで、井戸があつて、竈があつてという、このあたりを実際どう現場で設えるかというところ。北野先生のイラストで井戸の上部構造の復元は描かれていないので、その辺から協議しないといけないと今のところ思っている。これ以上のところは資料がなく、造るにしても「それは本当か」という話になるため、どこで確定していただくか、なかなか難しい。検討したいと思う。
伊東部会長	話題を変えまして、グラフィックはどうでしょうか。参考資料 1-1 だと熊本城と書いてある大型スクリーンが出てきて、これについては何かご意見ありませんか。
事務局	入り口はいつてすぐに大型スクリーンを使った演出があること自体についてのご意見ということでお願いします。
西村委員	私はもうこれでいいのではないかと思いますね。こういうものがあつたという展示でいいんじゃないかなと思う。元々主要構造物が全然違うわけで

	すから、昔と少し違う表し方でもいいのかなと。1-1 で私はいいだろうと思う。
西嶋委員	これは何か出典があるものを拡大しているのか。それとも誰かに書かせるのか。
事務局	ここに映し出しているのは一例としてはめている絵でしかない。全体の入り口なので、最初入って目に付く正面ということで、せいぜいスライドショーで1~2分程度の概要説明を流す案。あまり長い映像を流すとそこで滞留して来場者が止まってしまうので、短いイメージ映像をお見せする演出という意味合いになると思う。
西嶋委員	写すのは、何を写そうと思っているのか。コンテンツというか。
事務局	それはまだ具体的に決めていない。
西嶋委員	これを見せられると皆さんこれで判断されると思う。
事務局	これが映しっぱなしというわけではなく、何枚かスライドショーで切り替わるようなイメージ。内容についてもこれからで、詳細は詰めていない。ここに大型スクリーンを設置するかどうかという演出方法自体を、おはかりしているところ。
今村委員	僕はあまり必要ないと思う。
事務局	もし必要ないという意見が多ければそういうふうに承りますし、あるいは概要説明として、ここでこんなものを出したほうが良いというご意見がありましたら承ります。
伊東部会長	こういうものを見ると、大型スクリーンがあってもいいかと思うけれども、なければなくても、本物を見せる場であるならなくてもいいかなというご意見かなと。
毛利委員	このスクリーンがあると、さあ熊本城に入ったと。イメージが湧くような気がする。だからあった方がいい。
伊東部会長	では、具体的にどのようなものがあつたほうが良いというものをお示しただくということによろしいか。 実は、まだ大きなところが残っており、資料の2・3と2階・3階です。大型模型を再利用して構成しようと。2階では「城下町模型」を置いているが、これは毛利委員の「南側のほうはもう少し拡大して惣構を見せられてはどうか」というご意見を反映して拡大する形で模型を作ろうという提案だった。1階では「木軸模型」と「上段の間」の二つの模型がある。これらを中心に据えて展示を組み立てるというやり方。これについてはいかがでしょうか。

・(参考資料4)に基づき事務局より説明

伊東部会長	このような経緯でつくられた良い模型で、これをさらに改良してクリーニングして使うということ。この場所において使うというのはいかがか。
毛利委員	再利用でクリーニングして使うというのはよく理解できた。河と堀をきれいにするのであれば、それに合わせて城門と土塁を、土塁の上には役人が歩いて見回りをしているという記録がございますので、ぜひ惣構の中の城門・土塁もぜひ塗りなおしていただいて、わかりやすくしていただくと思います。
富田委員	「城下町模型」と書いているけど、「熊本城の模型」です。城下町をあらわしているわけではない。入っているだけだから。
事務局	わかりました。
伊東部会長	模型に関しては承認いただいたということにしたい。

・(参考資料 3) に基づき事務局より説明

今村委員	最上階は右側の案の方が空間的に広く感じる。このような広く感じられる方が最上階としてはいいと思う。子どもたちが乗りたいがるということとは、最上階には誰かいるだろうから、そういう人的な対応をすれば解決できると思う。右案の方がいいのではないかと思う。
西村委員	ガラス張りの方がいい。広く見えるし、中が見えたほうが保安上もいいのかもしれない。車椅子の方が中で転倒していたりしたら危ないから。
西嶋委員	ガラス張りでない方がいい。エレベーターの籠が上がってくるのが見える。それを見せる必要はないと思う。
谷崎委員	地下 1 階の話にもあったが、構造的なものが見えるのは興ざめかなと思う。そういうことからいうと、私も左の案の見えない方がいい。視覚的には確かに狭く見えるが、当然周回するのだから、機械的なものがそこにあまり見えない方がいいと思う。
毛利委員	私は左側の、空間が見えない方がいいという気がする。
富田委員	どちらかというとならガラスの方がいい。
伊東部会長	建築の人が意見を求められたら、右の方がいいというかもしれない。見えなくても、左のような案も落ち着いていていいなという気もするが。部会の意見ということで、人数の多い少ないで決めていいことでもないと思う。
西村委員	部会長さんに一任します。
伊東部会長	左のような案でよろしいか。
事務局	左の案で行くならば、色合い等がこれでいいのかということも合わせてご意見をお願いしたい。
伊東部会長	何かご要望がございますか。こういうのは難しくて、中に人が入ってくる

	と違って見えたりする。若干展示もあるようなので。そういうものが入ってくるとまた雰囲気は違ってくる。
西嶋委員	たぶん全体の連続性というものがあると思う。地下1階の穴倉から入っていただき、エレベーターに乗らない一般の方は階段から上がって展示室を見ていただき、展示室そのものの内装や色合いがあるだろうから。最上階に来てそれが極端に変わるよりも、変わるのは外に広がっている景色がガラスから見えるという部分なので、内装は下からの連続性でありあまり変化をつける必要はないと思う。
伊東部会長	というご意見もあるので、この件については基本的には他にご意見もないようなので、ここまでということ。
事務局	これについては、全体的に調整をしながら進めたい。今はちょっと極端に明るめの案を出しているの、またこちらで検討させていただければと思う。
西村委員	フロアの床材は、以前の床材は人研ぎでつるつるする石の床だったが、今度はこの絵を見る限り、クッションフロアみたいな感じがする。人研ぎではないことは確かか。疲れやすくない床材がいい。前は石の上を滑るような感じで、たぶん人研ぎだった。お年寄りでも疲れが出ないものにしてもらった方がよい。
伊東部会長	大きな案件として、穴倉の件が残っているが、次第としてはこの後に参考資料の説明になっていた。参考資料の中で説明いただいていないところをお話いただきたい。
毛利委員	今日の参考資料の2-4の熊本城と近代化という3階の部分で、下に写真の「古城医学校」・「古城医学校と熊本洋学校」と書いてあるが、ここに書いてあった「古城医学校と古城病院」、「古城洋学校とジェーンズ邸とマンズフェルト邸」と2つ分けて、写真を掲載した方がわかりやすいと思う。
伊東部会長	そのあたりはご意見をいただいたので、また考えていただければ。
今村委員	今の写真で、右の写真の左の建物は医学校か、洋学校か。
毛利委員	上の段が洋学校。
今村委員	左が洋学校。
毛利委員	下の段が医学校。
今村委員	医学校。洋学校にはジェーンズ邸が映っているか。
毛利委員	ジェーンズ邸と洋学校は上の方。
今村委員	3つの煙突が見えるが、ジェーンズ邸にはそんなにない。
富田委員	これは洋学校の教室の方。
今村委員	教室の方だろう。ジェーンズ邸ではないだろう。
富田委員	ジェーンズ邸ではない。

事務局	いずれにしても、その辺お間違えのないようにお願いしたい。
-----	------------------------------

・(参考資料5・6)に基づき事務局より説明

西嶋委員	全体に関する点で、まず天守閣に入る人はどういう対象者を想定しているのか。熊本城域にアクセスされた方でこの天守閣に登られる人、入られる人はどういう人なのかという想定ができないかということ。その上で、やはり色々な歴史遺産・施設を体験していただきたい。例えば加藤清正が葬られている本妙寺や細川家の歴代や武蔵の墓があるといわれている泰勝寺とか妙解寺とか。先ほど毛利委員から古城地区の話があり、残っている建造物としては、県の指定文化財のジェーンズ邸や、富重写真所の写真が出たが、この写真所は国の登録文化財である。今回歴まち法も検討されているようだが、そういうふうに訪れられる場、城下町周辺の歴史の体験ができる場が広がっている。私の想定だと天守閣の上まで登る方は時間がたっぷりある方とかアクティブな方。そういう方たちに、より広範囲に熊本の歴史体験をしていただくために、展示をどういうふうにネットワークしていくかというのも少し工夫をしていただければ。
伊東部会長	全体に関するご意見を頂戴しましたがけれども、参考資料についてのご質問でも結構です。
毛利委員	参考資料2-2、2-3で古い絵地図が使っているが、わかりやすくしておかないと何を見せたいのかなどがわからないと思うので、わかりやすいようにしておいたほうが親切だと思う。
伊東部会長	他はよろしいか。では、参考資料については以上とさせていただきたい。最後に大問題が、穴倉についてはどうまとめるかということ。ご意見としては内部の穴倉の石垣を大いに見せるということについては、皆さん反対はない。板敷き・竈を復元していくと考えた時に、その背景にダンパーが見えると興ざめだというご意見や、折衷案がいいのではないかというご意見もいただいた。非常に難しいが、基本的には見せる方向で行くけれども、その下の井戸・竈周辺に関して、興ざめにならない程度で少し背景を考えると何か少し案を考えていただくというくらいが、最終的な折衷案になるかというところと思う。事務局としてはそのような提案だと厳しいでしょうか。井戸・竈・板敷きを平面的なものしか根拠がなく復元できないということであるならば、埋蔵文化財の遺構表示みたいなのところでとどめておけばそれほど壁まではいらないのかもしれない。少し立面的に立ち上がってくるとその背景が気になるということかなと思う。平面的な根拠しかないのであれば、復元はやめておきましょうということにな

	るのかもしれない。
事務局	今ご提案がありました。今後、次回部会が12月頃を予定しておりますので、それまでに監修者である伊東部会長や平井先生にもご意見をいただきながら、また次回ご提案させていただければと思う。以上でよろしいでしょうか。
伊東部会長	それでは、他にも検討すべき事項があったかと思いますが、大きなところだけ取り上げました。時間もありますので。
事務局	6階のエレベーターについては左の案で、色調等は下の階と合わせながら進めていくということでよろしいか。
伊東部会長	はい。若干多数決的な感じになったが、そう大きな反対もなかったもので、そうさせていただきます。

4 総括

伊東部会長	<p>それぞれの展示についてご意見を頂戴し、前回からの先生方のご意見を踏まえ、事務局側から展示案を提案いただき、大枠これでいいでしょうという話だが、穴倉については、大型スクリーン設置というのも提案に反対するものではなく、もう少し具体的な案をお示しいただければそれで議論ができるだろうということだったと思う。</p> <p>1階と2階の大型模型を再利用することについては基本的にこれでいいだろうということだったが、毛利委員からは城門や土塁といったものについても有用なご意見があった。途中階の絵図の展示については、絵図を見やすく、わかりやすくという注文もあった。そういうことでやっていただければと思う。6階のエレベーターについては、中が見えるようにという案と、壁で中が見えないようにする案と、色合いの問題もありましたが、基本的には壁で見えなくする案でいいでしょうということで、その色合いについては少し明るめのご提案だったという事務局の説明だったが、下の階からのつながりを考慮してお考えいただければということだった。以上を総括とさせていただきます。</p>
-------	---

5 その他（事務連絡）

事務局	次回の天守復興部会の開催につきましては、12月中で考えている。改めて部会長と日程調整をさせていただいた上で委員の皆様にはご連絡をする。
-----	---

6 閉会